

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900037
法人名	社会福祉法人 福実会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ちかのり
所在地	岡山県高梁市落合町近似13241
自己評価作成日	令和 5年 11月 20日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター
所在地	岡山市北区松尾209-1
訪問調査日	令和 6年 1月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた地域で施設内は明るく広く開放的な空間となっている。併設施設や医療機関と連携を図りながらサービス提供に努めている。また家族と信頼関係が築けるように、毎月手紙で日頃の利用者様の様子を伝えるようにしている。
認知症サポーター養成講座を行い、学校など地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高梁市街が一望出来る山の中腹にあり、自然豊かで全室南向きで日当たりが良く開放的な施設です。法人理念「お互いの気配りで慈愛と奉仕の精神」と目的「地域福祉の多様なニーズに応え人間としての尊厳、プライバシーの確保、人権の尊重、その人らしい生活の場と為る施設の充実」を掲げひとり一人のペースに合わせた生活の支援が提供されています。入居前の生活の延長線上にある生活環境に近づけて行く支援が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等がサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し意識の共有を図り、ミーティング等を活用し、共通認識を持つようにしているが、年齢、経験等で理解度に差がある。	理念の掲示と職員の周知徹底がされています。その人らしい生活の場と残存能力を活かす支援が窺えます。	理念を介護現場に具体的にどう活かしていくのか、話し合いの継続と実践の積み重ねに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中高生のボランティア受け入れや認知症サポーター養成講座として学校、地域との交流を図る。	毎月の認知症カフェの開催と小学4年生、中学生を対象に認知症サポーター養成講座の開講、清掃活動などの地域活動、交流に積極的に取り組んでいる姿勢が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ認知症サポーター講座を受講できていない新規採用の職員など、積極的に受講するよう勧めている。 また、認知症カフェに参加し、認知症に対する理解を深められるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回実施している。	コロナ禍での会議は事業所の取り組み内容の報告を郵送でしており地域からの要望(通勤時の交通安全)も受け入れて良好な関係が保たれています。地域の方の介護サービス相談も受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、相談等をしている。	事業所からは利用料徴収についての相談や事故報告を行い、行政からは感染症対策の情報がメールで入りその都度対応しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修会を開催し、知識や理解を深めている。エレベーターへの出入り口は、転落防止のため施錠している。構造上やむを得ないため、契約時に家族等に説明し、理解を得るようにしている。	玄関の施錠はなく、帰宅願望の強い入居者には職員が散歩感覚で一緒について外へ出たり気分転換を図りながら対応をしています。	身体拘束をしないケアの実践の継続と合わせて、スピーチロックに関する研修に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に開催する研修に参加し、知識や理解を深め、家族等状況は面会時の機会を捉え、状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体で外部講師(市役所地域包括)からの協力を得ながら研修に反映し理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し、理解、納得して頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などを利用し、家族等の意見、要望を聞き、運営に反映させるよう努めている。	家族からの要望は面会時にその都度声かけし、話をしやすい関係を作る中で口頭でできくことが多くあります。関係が疎遠にならないように毎月写真にコメントを付けて送って、入居者の普段の生活を共有していることから家族の安心に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等を活用し、意見の集約に努め、運営に反映できるよう努めている。	各ユニット会議にを活用し職員の意見を吸い上げたり、理学療法士や管理栄養士の参加によりアドバイスをもらい、福祉用具の利用で介護の軽減や食事形態の変更により食べづらさの軽減に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の異動、離職が続き、やりがいなど働きやすい職場環境づくりには程遠かった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修など、あらゆる機会を捉え、参加するようzoom参加など工夫はしているが職員が固定し、職員の不足により、参加そのものができにくくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やケアマネ会により多職種、他事業所との交流機会はあるが、上記同様、参加する職員が固定している傾向にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、契約時に本人、家族から情報収集し、カンファレンスで情報の共有を図り、サービス提供に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等に耳を傾け、家族の信頼が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを十分行い、出来るだけ要望に応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、日常的作業など、常に声掛けをし、役割を持って生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限を設けての面会としている。本人を支えるのが施設だけではなく、家族と共に協力し支えていく共通認識を持てるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方など、馴染の人が尋ねて来た時は、気楽に話ができる様、限られた場所ではあるが、環境を整え、再度来苑していただけるようにしている。	地域住民の方の面会もあり、関係を継続できるように支援しています。ドライブで桜などの花見に良く出かけたりしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、認知度にもよるが、攻撃的な言葉を発するような場合は、その都度席を移動するなど工夫し、一人ひとりが孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に説明したり、請求書送付時に手紙を同封しているが、お礼はあっても相談等はないのが現実である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、職員間で情報交換をしながら現状の把握に努め、実施に向け取り組んでいる。	毎日の申し送りで入居者の思いや希望について得た情報も共有したり、誕生会の献立について希望を聞いて手作ります。コミュニケーションをとる際には、入居者にあわせてジェスチャーや筆談など工夫をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接での家族の話し合いや、担当ケアマネ等からの情報で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録などで把握に努め情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向は把握しづらいが、できるだけ本人の要望に近づける介護計画を、家族や関係者と話し合いながら作成している。	入居者の要望に添って、家族や担当職員からの気づきや意見を聞き介護計画をたてています。家族が来所される時は、声かけてその都度意見を聞き計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録はできていても、気づきや工夫を個別には記録できていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の他事業所が開催する行事等に参加をしたり、知り合いがいると訪問したりして、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	掛かりつけ医の訪問診療などを利用し、安全に生活が送れるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員間で情報を共有し、本人、家族等の希望に沿い、また適切な医療を受けられるよう情報提供書を提出している。	入居前のかかりつけ医との関係性を大切にして、家族が付き添って通院を行っています。また、診療内容についても情報共有して日々の健康管理に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診が必要な場合など、法人内の他事業所の看護師や、医療機関の看護師などと連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時病院に訪問し、MSWや看護師と情報交換や相談をして入退院がスムーズにできるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、同意を得ている。	重症化した場合の事業所の対応について契約時に説明と、状況に応じてその都度説明し話をしながら納得した上で文書に残しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会により、マニュアル作成され、研修や消防署の救命講習などで、知識を深めている。実践に関しては、職員間で格差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に年に2回避難訓練を実施し防災委員会の研修にも参加し、職員全員が、身につくよう取り組んでいる。施設内点検や備蓄品の保管をしている。	避難訓練(年2回実施・1回は夜間訓練)マニュアルを基に実施しています。法人全体の緊急連絡網はラインで発信しています。町内会長の協力を得ています。3日分の備蓄は倉庫に保管しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状態に合った声掛けや支援が出来ず職員主体になっていることがある。	トイレへの誘導は排泄チェック表を基に声かけ誘導しています。個々の状態に応じた声かけ、伝わりやすい言葉を工夫しながら自尊心を大切にしていることが窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己実現できるよう、声掛けをし要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせる事が困難な場合は、出来るだけ理解してもらえよう説明し、強制や強要のないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を出来るだけ本人の意思を尊重したり、好きな服があれば、それを着ていただいて貰うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は難しいが、テーブル拭き、下膳、お盆拭きなど出来る人に、出来る事してもらっている。	外部委託の食事ですが、季節に応じてカードが添えられています。行事食などの手作りの献立について個々の能力に応じて手伝いをしてもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、管理栄養士に相談し、健康状態を保てるよう取り組んでいる。食事形態の見直しや、食べれない方には栄養補助食品を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月歯科往診にてチェックを行い。義歯や歯磨きなど意見を反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて誘導したり、詳細な記録を取り、出来るだけ自立できるよう支援を行っている。	入居前は紙パンツを使用していた入居者の排泄パターンを把握し、観察をすることで布パンツへと繋がったケースがあります。意思表示が困難な入居者は表情やしぐさなどのサインを見逃さず誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医に相談をしたり、水分量の把握、運動など、個々に応じた予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、その中で、出来るだけ本人の希望に沿うようにしている。ゆず湯などで、入浴の楽しみを感じてもらっている	週2回以上を目標にひとり一人の生活習慣やその時の気分を大切に入浴できるよう支援しています。季節感を味わうゆず湯をしたりゆったりとくつろいだ気分で湯船につかることに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等を考慮し、その都度必要に応じた支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気、薬の内容の把握に努め、事故のないよう、毎回職員間で確認し合いながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ一人ひとりの要望を日常の会話の中から聞き取り、メリハリのある生活が送れるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のいい時など、戸外に散歩や花の水やりなどしている。	戸外で気持ちよく生き生きと過ごせるように花見ドライブやゆったりと買い物に時間を掛けたりしています。散歩をしながら外気浴をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を持ち、支払いをすることはない 全額施設が立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば対応している。家族に対して利用者の様子が分かるように写真入りのお手紙を届けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に努め、レクで作成した作品を飾るなど、温かみのある又は季節を感じられる空間づくりに努めている。	共有の生活空間には毎月、季節感をとり入れたカレンダーを手作りしたり、花や行事の写真を飾ったりして居心地良く過ごせるようにしています。日当たり良い南向きの窓からの景色は季節感があふれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋とホールを自由に動き、思うように過ごせるようにしている。テレビ前のソファで、くつろげるよう場所作りも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の馴染みのあるものの持ち込みを依頼し、自分の家のような居心地のいい部屋づくりに努めている。	馴染みの物を活かして居心地良く、安心して過ごせるようタンスや写真、仏壇等を持ち込んだりして入居前の環境作りに努めています。その人らしく暮らせる部屋づくりが窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げや、事故防止の為、動線に物を置かない。トイレなど、貼り紙をして迷わずスムーズに行けるよう工夫している。		